



### “父・十河信二の素顔”

今、四国鉄道文化館の隣で、今年秋の完成をめざして、十河信二記念館（仮称）の建築を進めています。十河信二氏については6月号で紹介しましたが、長女の加賀山（旧姓十河）由子さん（97歳、加賀山之雄第2代国鉄総裁夫人）が、今もお元気でいらっしゃいます。

今回は由子さんから伺いました、十河信二氏の素顔についてのお話の一部を、ご紹介します。

#### 【加賀山由子さんのお話】

父は短気な人でした。すぐに雷が落ちてくるので『春雷子』という雅号を自らつけました。これは、春の雷は、音は大きくても害はないという意味だそうです。若い頃の私は、家のことも顧みない父を見て、「こういう男とは結婚したくない」と思ったものです。

けれども国鉄総裁時代に母が病気になるたときの尽くし方は、真似できないものでした。多忙なのに夜は早く帰ってきて、寝室で一緒に食事をしたり、やさしい言葉をかけたり…。そして寝るときは、自分の腕と母の腕をヒモでつないで、「何かあったらヒモを引け。すぐに俺が起き

て見てやるから」と言っていて、自分のベッドを寄せて休んでおりました。障害者の方々にもやさしくて、心の温かい人でした。戦争が終わって間もない頃に、障害者のための学園が建てられるときに、父はその応援をしています。障害者の方々が作られたチョッキなどが、プレゼントとして父のところによく届いていました。

父のことについては、そういう一面があったことも取り上げて欲しいと思います。



▶前列右 加賀山由子さん、前列左 由子さんの姪・山岡（旧姓加賀山）園子さん、後列右 由子さんの長男・加賀山真さん、後列左 真さんの妻・諒子さん。

## 永納山城跡など市内の史跡・文化財を視察

全国史跡整備市町村協議会愛媛県支部 第12回総会を開催

西条市が加盟している「全国史跡整備市町村協議会」愛媛県支部の総会と視察研修が7月26日・27日の両日にわたって西条市で行われました。この協議会は、加盟自治体が協調して文化財の保存と活用にあたることを目的とするものです。

初日は総合福祉センターを会場とし、県内加盟市町関係職員など31名が参加して役員会・総会が行われ、終了後には事例発表と記念講演会がありました。

事例発表では現在西条市が

実施している国指定史跡「永納山城跡」の発掘調査の現状や課題について報告を行い、記念講演では来賓の文化庁文化財部の山下信一郎調査官から、史跡の保存管理計画策定について、具体的な事例を交えての紹介がありました。

翌日は、参加者による「永納山城跡」をはじめとする西条市内の史跡、文化財の視察研修が行われました。

今後市では、同協議会の活動をはじめ様々な角度から文化財の保存活用にあたっていきなると考えています。



▶文化庁・山下信一郎調査官による記念講演



▲国指定史跡「永納山城跡」での現地視察